



XLS DriveCore 2 Series
XLS1002, XLS1502
XLS2002, XLS2502



取扱説明書

お買い上げいただき、誠にありがとうございます。
安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。
この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも見られるところに保管してください。

安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の方への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

	警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
	注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

警告

- 必ずAC100V(50Hz/60Hz)の電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源コードを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となり危険です。また、同梱された電源コードは、他の機器には使用しないでください。
- 濡れた手で、電源コードや他の機器との接続ケーブルの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。コードが破損して火災や感電の原因となります。
- 確実にアース接続をしてください。また、アース線の脱着は電源を外してから行ってください。感電の原因となります。
- 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常が起きたときは、ただちに電源を外し修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。

注意

- 必要な電流容量を安全に供給できるよう、適切な電源回路を用意してください。
- 機器の重量に耐える強度を持った安定した場所に設置してください。また、ラックに設置する際は、前面パネルだけでなく背面パネルも固定してください。落下によるけがや故障の原因となります。
- 以下のような場所には設置しないでください。火災や故障の原因となります。
 - ・ 直射日光のあたる場所
 - ・ 極度の低温または高温の場所
 - ・ 湿気の多い場所
 - ・ ほこりの多い場所
 - ・ 振動の多い場所
- 通気性の良い場所に設置し、機器の吸気口や排気口は絶対に塞がないでください。熱がこもって、火災や故障の原因となります。
- 他の機器との接続は、機器の電源を全て切ってから行ってください。特に出力の接続は、電源を切ってから10秒以上たった後で行ってください。
- 電源を入れたり切ったりする前に、各機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害や機器の破損の原因となります。
- 出力ケーブルがシャーシや他のケーブルとショートしないよう十分注意してください。感電や故障の原因となります。
- スピーカーの破損を防ぐため、電源を入れるときは一番最後にこの機器の電源を入れてください。また、電源を切るときは一番最初に電源を切ってください。
- 大きな音量に連続してさらされると、聴覚障害の原因となります。音量の設定は慎重に行ってください。
- 長時間使用しないとき、または落雷の恐れがあるときは、電源コードを取り外してください。火災や感電、故障の原因となります。
- 機器の移動は、電源コードや他の機器との接続ケーブルを全て外した上で行ってください。けがやケーブル破損の原因となります。

目次

安全上のご注意	P.02	アンプモードの解説	P.06
目次	P.03	入力感度の設定	P.07
製品の特長	P.03	クロスオーバー	P.08
梱包内容の確認	P.03	システムメニュー	P.08
各部の名称と機能		メニューナビゲーション	P.09
前面パネル	P.04	仕様	P.10
背面パネル	P.05		

製品の特長

- DriveCoreにより音質を妥協せず軽量化を実現
 - ・増幅回路の心臓部となる高精度のクロックや変調、誤差増幅、フィードバックなどの機能を1つのチップに集積したカスタムIC、“DriveCore”を搭載。パワーや音質を妥協せずに極限までパーツを削減しています。
 - ・電源部は軽量で高効率なスイッチング電源を採用しています。
 - ・全モデル5kg以下と軽く、可搬性に優れています。
- クラスを超えた出力パワー
 - ・Class-D動作で高負荷のサブウーファーも効率的にドライブします。
 - ・Peakxリミッターを搭載し、スピーカーを保護しながら出力性能を最大限に引き出します。
- パワフルなDSPによる、フィルター設定が可能
 - ・24dB/octのリンクウィット・ライリーのフィルターを採用したPureBandクロスオーバーシステムを採用。30Hz～3kHzの範囲で1/12octごとに任意のクロスオーバーポイントを設定できます。
 - ・フィルターの種類は、フィルターなし、ローパス、ハイパス、バンドパスから選択可能です。
- 柔軟な入出力
 - ・入力端子はXLR、標準フォーン、RCAの3種類を装備。入力感度を1.4Vと0.775Vから選択可能です。
 - ・出力端子はスピコンとバインディングポストを備えています。
- その他にも便利な機能を搭載
 - ・前面パネルにバックライト付き液晶ディスプレイを装備。インジケーターのLEDを含め、設定によりON/OFFが可能です。また、前面パネルの操作を禁止するロック機能を利用可能です。
 - ・離れた場所から正常動作を確認するためのステータス信号を、背面パネルから出力します。
 - ・外部接点で消費電力を抑えるスリープモードに設定できます。
 - ・空冷ファンを搭載し、本体内部を効率的に冷却します。

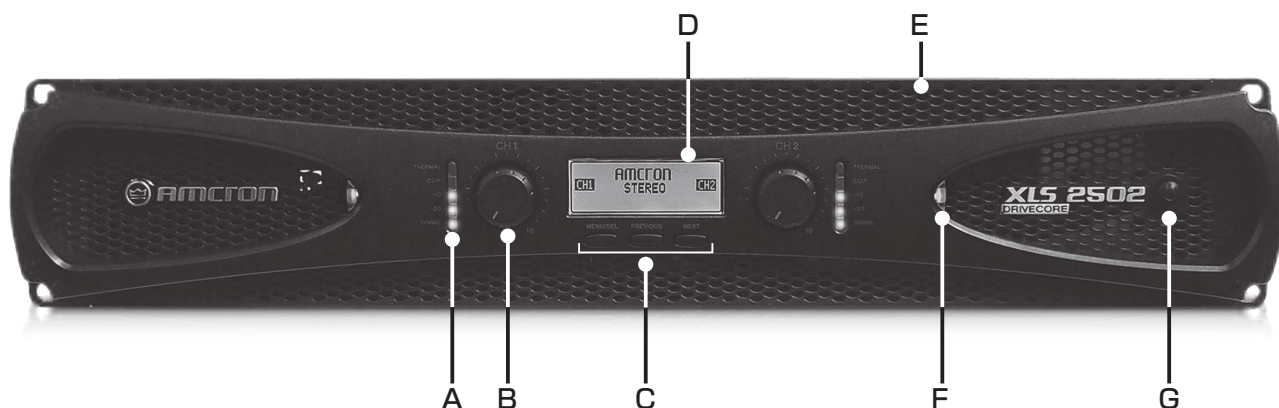
梱包内容の確認

パッケージに次の物が入っていることを確認してください。

- 本体
- 電源コード
- 和文取扱説明書
- 保証書

各部の名称と機能

前面パネル



A - インジケータ(各チャンネルに1系統) :

Thermal インジケータ :

過熱状態になるとLEDが赤く点灯します。

Clip インジケータ :

出力が過負荷状態になると、LEDが赤く点灯。常に点灯しているときは、出力レベルを下げてください。

-10 インジケータ :

出力がクリップレベルの-10dB前を超えると緑色に点灯します。

-20 インジケータ :

出力がクリップレベルの-20dB前を超えると緑色に点灯します。

Signal インジケータ :

ごく低いレベル(-40dBu)でも入力信号があれば緑色に点灯します。

B - レベルコントローラ(各チャンネルに1系統) :

クリック付きの回転式レベルコントローラです。

C - MENU/SEL、PREVIOUS、NEXTボタン :

液晶画面上のメニュー項目の操作に使用します。

D - バックライト付き液晶ディスプレイ :

クロスオーバー、アンプモードの設定状態を表示します。

E - グリル :

冷却ファンの空気の吸い込み口です。絶対にグリルをふさがないでください。

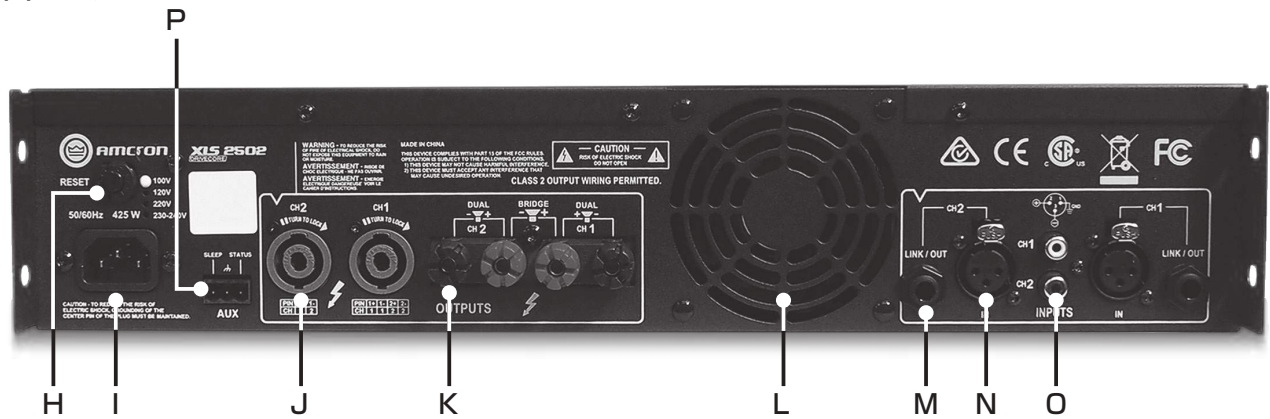
F - パワーLED :

電源をオンにすると青色に点灯します。

G - 電源スイッチ :

パワーアンプをオン/オフします。

背面パネル



H - リセットスイッチ：

ブレーカーをリセットします。

I - 電源入力端子：

電源コードを取り付けます。

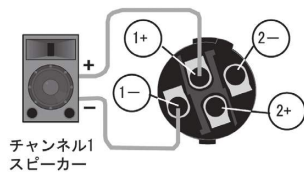
J - 出力端子①：

スピーカーを接続する端子です。ノットリック製NL4スピコン端子。

2つのスピーカーに信号を送り出す際にスピコンを使用する場合、次の2通りの方法があります。どちらかの方法を選択してください。

① CH1 と CH2 の両方のスピコンを使用する。

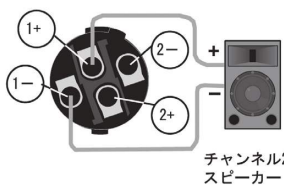
●チャンネル1



チャンネル1
スピーカー

チャンネル	1	
極性	+	-
スピコンの ピン番号	1+	1-

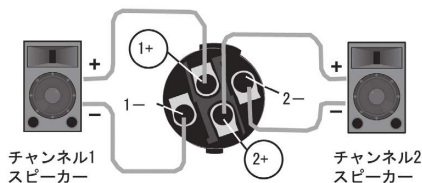
●チャンネル2



チャンネル2
スピーカー

チャンネル	2	
極性	+	-
スピコンの ピン番号	1+	1-

② CH1 のスピコンのみを使用する。



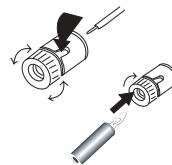
チャンネル1
スピーカー

チャンネル2
スピーカー

チャンネル	1		2	
極性	+	-	+	-
スピコンの ピン番号	1+	1-	2+	2-

K - 出力端子②：

スピーカーを接続する端子です。バインディングポスト端子。バナナプラグや、先バラのスピーカーケーブルが接続できます。スピコンと並列になっています。



- 先バラケーブルの場合
ノブをゆるめ、絶縁部をはがしたケーブルを側面の穴に差し込み、ノブをしっかりとめます。
- バナナプラグの場合
ノブを強くして、前面から差し込みます。

L - ファン：

空気を前面から吸い込み背面へ送り出し、本体を冷却します。

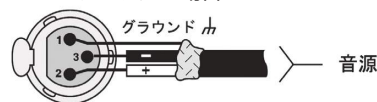
M - 入力端子①(各チャンネルに1系統)：

音声信号を入力する端子です。標準フォーンジャック。入力した信号を他のアンプへ送るためのLINK/OUT端子(ループスルー端子)としても機能します。

N - 入力端子②(各チャンネルに1系統)：

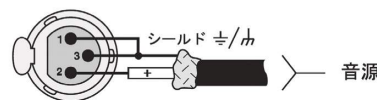
音声信号を入力する端子です。3ピンメスXLR端子。

バランスケーブルの場合



- 1: グラウンド
- 2: +(プラス)
- 3: -(マイナス)

アンバランスケーブルの場合



O - 入力端子③(各チャンネルに1系統)：

音声信号を入力する端子です。RCA端子。

P - AUX端子：

SLEEPモードとAMP STATUSを設定する端子です。3ピン・ユーロブロック端子。左と中央のピンを外部接点で接続すると、待機時の消費電力を抑えるSLEEPモードになります。接続を解除すると通常の動作に復帰します。SLEEPモード時はパワーLEDが点滅します。

右のピンはAMP STATUS 信号を出力します。通常稼働時は電圧が発生しますが、過熱や異常が検知された場合は電圧の発生を停止します。

※電源OFF時、SLEEPモード時、FAULTインジケータ点灯時は、AMP STATUS 信号を出力しません。

※AUX端子に接続するためのコネクタやケーブルは付属していませんので、別途ご自身でご用意ください。

アンプモードの解説

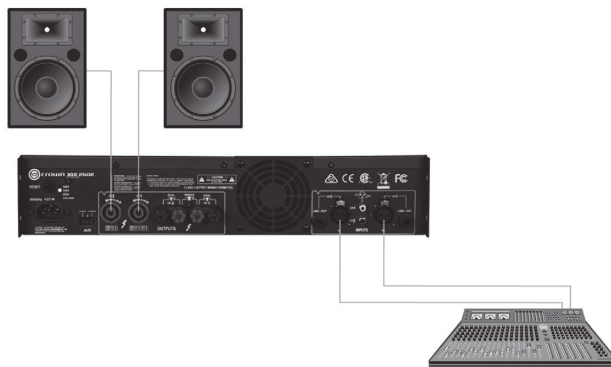
本機は3つのアンプモードを用意しています。システム構成に応じてモードの設定を行ってください。

● Stereo Mode(ステレオ モード)

通常のステレオ・パワーアンプとして使用するためのモードです。工場出荷時はこの状態に設定されています。必要に応じてクロスオーバーを適用してください。

配線方法

1. CH1 およびCH2の入力端子にミキサー等を接続します。
2. CH1 およびCH2のバインディングポスト出力端子またはスピコン出力端子にスピーカーを接続します。



● Bridge Mode(ブリッジ モード)

ブリッジモードでドライブするときは、ステレオモードの2倍の出力電圧で、1つのスピーカーをドライブします。

- ※ スピコン出力端子の1チャンネルのみを使用し、チャンネル1のレベルコントロールのみを使用します。
- ※ バインディングポスト出力端子を使用する際は、音が歪むため黒のターミナルは絶対に使用しないでください。
- ※ 接続可能な負荷インピーダンス(スピーカー)は4Ω以上です。



配線方法

1. CH1の入力端子のみにミキサー等を接続します。
2. CH1 およびCH2のバインディングポスト出力端子またはスピコン出力端子にスピーカーを接続します。

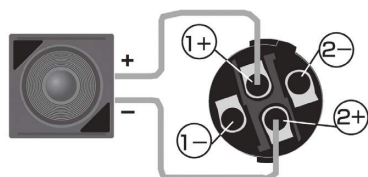
バインディングポスト出力端子を使用する場合:

CH1の+端子にスピーカーの+端子を接続し、CH2の+端子にスピーカーの-端子を接続します。

スピコン出力端子を使用する場合:

CH1出力のみを使用します。1+端子にスピーカーの+端子を接続し、2+端子にスピーカーの-端子を接続します。

- ※ スピコンを使用してブリッジモードでドライブする場合



極性	+	-
スピコンのピン番号	1+	2+

設定方法

- ※ 前面パネルのPREVIOUS(前へ)またはNEXT(次へ)ボタンでカーソルの移動、MENU/SELボタンで決定です。

1. MENU/SELボタンを約1秒以上長押しし、液晶ディスプレイに[MAIN MENU]画面を表示させます。
2. [AMP MODE]を選択し、MENU/SELボタンで決定します。
3. [BRIDGE]を選択し、MENU/SELボタンを押しアンプモードを決定します。自動的に[MAIN MENU]画面に戻ります。
4. [EXIT]を選択して決定すると、ホーム画面に戻ります。“BRIDGE”とアンプモードが表示されているのを確認できます。

● INPUT-Yモード

チャンネル1の入力信号を分岐して、チャンネル1とチャンネル2の両方から出力するモードです。内蔵のクロスオーバー機能を使用して、2-Wayのスピーカーを1台のパワーアンプでバイアンプ駆動する場合にも利用できます。

配線方法

1. CH1の入力端子のみにミキサー等を接続します。
2. CH1およびCH2のバイディングポスト出力端子またはスピコン出力端子にスピーカーを接続します。



設定方法

※ 前面パネルのPREVIOUS(前へ)またはNEXT(次へ)ボタンでカーソルの移動、MENU/SELボタンで決定です。

1. MENU/SELボタンを約1秒以上長押しし、液晶ディスプレイに[MAIN MENU]画面を表示させます。
2. [AMP MODE]を選択し、MENU/SELボタンで決定します。
3. [INPUT-Y]を選択し、MENU/SELボタンを押しアンプモードを決定します。自動的に[MAIN MENU]画面に戻ります。
4. [EXIT]を選択して決定すると、ホーム画面に戻ります。“INPUT-Y”とアンプモードが表示されているのを確認できます。

入力感度の設定

本機を駆動するのに十分なレベルに達しない信号を入力する場合は、入力感度設定を「.775V-HIGH」に変更してください。通常は「1.4V-NORMAL」に設定してください。

設定方法

※ 前面パネルのPREVIOUS(前へ)またはNEXT(次へ)ボタンでカーソルの移動、MENU/SELボタンで決定です。

1. MENU/SELボタンを約1秒以上長押しし、液晶ディスプレイに[MAIN MENU]画面を表示させます。
2. [INPUT SENSITIVITY]を選択・決定します。
3. PREVIOUSまたはNEXTボタンで[1.4V-NORMAL]または[.775V-HIGH]を選択し、MENU/SELボタンで決定します。自動的に[MAIN MENU]画面に戻ります。

クロスオーバー

● PureBand™ クロスオーバーシステム

PureBand™ クロスオーバーシステムは、24dB/oct のLinkwitz-Riley のフィルターを採用しており、30Hzから3kHz の間で1/12oct ごとにクロスオーバーポイントを設定できます。Low Pass、High Pass、Band Passの3種類のフィルタータイプを利用できます。

<例:チャンネル1にHIGH PASSフィルタータイプを適用する場合(STEREOモード)>

※ 前面パネルのPREVIOUS(前へ)またはNEXT(次へ)ボタンでカーソルの移動、MENU/SELボタンで決定です。

1. MENU/SELボタンを約1秒以上長押しし、液晶ディスプレイに[MAIN MENU]画面を表示させます。
2. [CROSSOVER]→[CHANNEL 1]→[HIGH PASS]を選択・決定します。
3. PREVIOUSまたはNEXTボタンで任意の周波数を選択し、MENU/SELボタンで決定します。自動的に1つ前の画面、または[MAIN MENU]画面に戻ります。
4. 何度か[EXIT]または[BACK]を選択・決定し、ホーム画面に戻ると“CH1”“HP”と適用したクロスオーバータイプが表示されているのを確認できます。

システムメニュー

液晶ディスプレイの設定やファクトリーリセットができます。以下の手順でシステムメニューを表示できます。

※ 前面パネルのPREVIOUS(前へ)またはNEXT(次へ)ボタンでカーソルの移動、MENU/SELボタンで決定です。

1. MENU/SELボタンを約1秒以上長押しし、液晶ディスプレイに[MAIN MENU]画面を表示させます。
2. [SYSTEM]を選択・決定します。設定できる項目の詳細は以下を参照してください。

[DISPLAY SLEEP]

液晶ディスプレイが消灯するまでの時間を設定します。いずれかのボタンを押すと復帰します。
30秒、1分、2分、5分、SLEEP MODE OFF(消灯しない)から設定できます。

[LIGHTING]

インジケーターのオン/オフを切り替えます。

PANEL:青色のパワーLED

METERS:緑色のSIGNALインジケーター、-10インジケーター、-20インジケーター

※ THERMALインジケーターとCLIPインジケーターはオフにできません。

[SECURITY]

前面パネルの液晶ディスプレイ用の操作ボタンをロックし、誤操作を防ぎます。

ロックするには[SECURITY]の設定を[ENABLE]にし、PREVIOUSボタンとNEXTボタンを同時に押します。液晶ディスプレイに“LOCKED”と表示され、ボタンがロックされます。

ロックを解除するには、PREVIOUSボタンとNEXTボタンを同時に押してください。

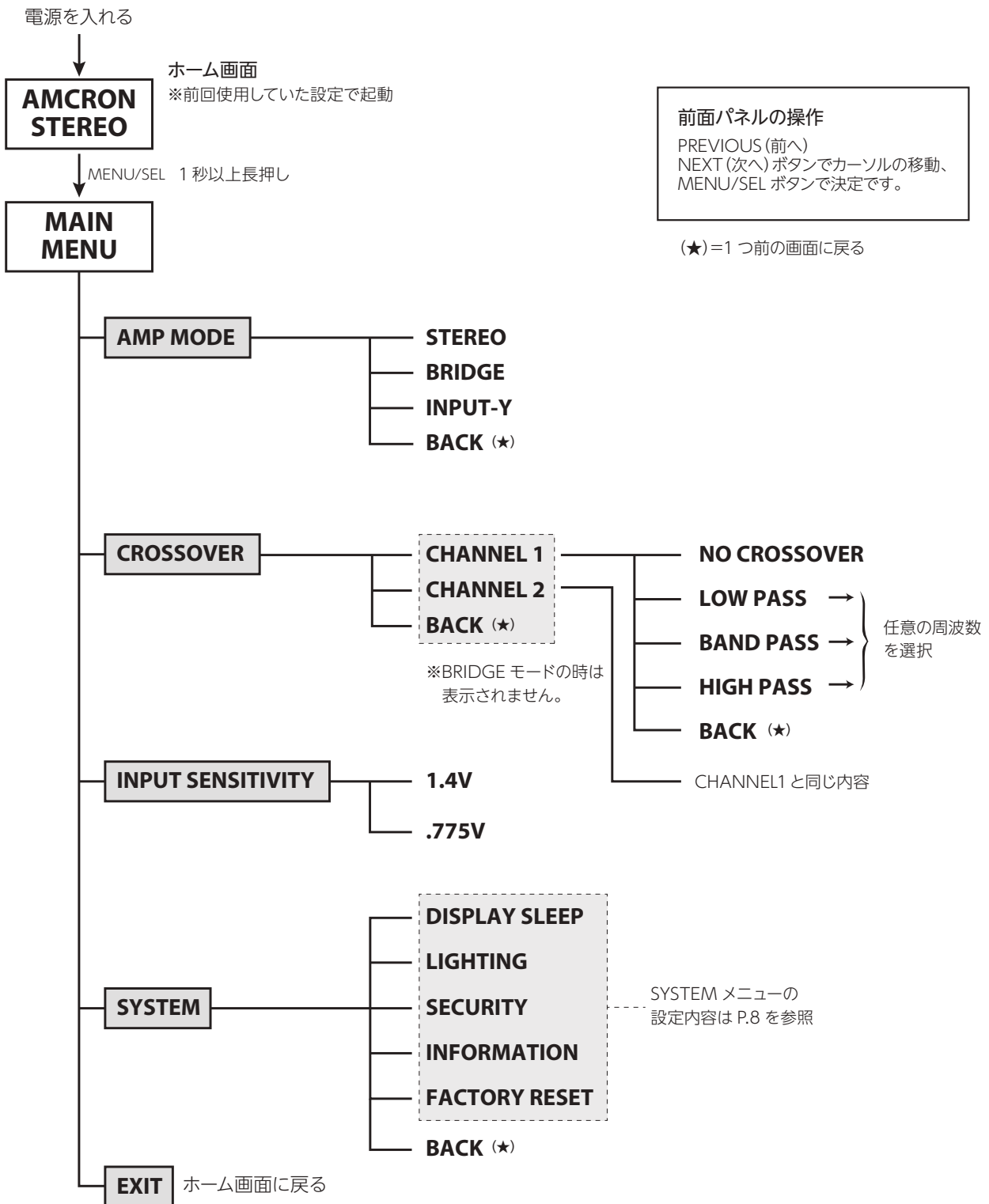
[INFORMATION]

モデル名や駆動電圧、内部温度、ファームウェアのリリースナンバーなどを表示します。MENU/SELボタンで前の画面に戻ります。

[FACTORY RESET]

工場出荷時の設定にリセットします。実行するには[FACTORY RESET]の設定を[YES]に選択・決定すると、確認画面が表示されます。再度[YES]に決定するとすべての設定データが消去され、工場出荷時の状態にリセットされます。

メニュー・ナビゲーション



仕様

		XLS1002	XLS1502	XLS2002	XLS2502
チャンネル数		2	2	2	2
チャンネル出力 (1kHz、THD 0.5%)	2Ω	550W+550W	775W+775W	1,050W+1,050W	1,200W+1,200W
	4Ω	350W+350W	525W+525W	650W+650W	775W+775W
	8Ω	215W+215W	300W+300W	375W+375W	440W+440W
ブリッジモノ出力 (1kHz、THD 0.5%)	4Ω	1,100W	1,550W	2,100W	2,400W
	8Ω	700W	1,050W	1,300W	1,550W
周波数特性 (20Hz~20kHz、1W)		+0dB、-1dB			
SN比(8Ω、Aウェイト)*		97dB以上	103dB以上		
THD		0.5%以下			
IMD(60Hz、7kHz、4:1)		0.3%以下			
ダンピングファクター (10Hz~400Hz、8Ω)		200以上			
アナログ入力	インピーダンス	20kΩ(バランス)、10kΩ(アンバランス)			
	入力感度	1.4V、0.775V			
出力コネクタ		4Pスピコン×2、バインディングポスト			
インジケータ		Signal、-20、-10、Clip、Thermal、Power			
電源		AC100V、50/60Hz			
消費電力	1/8出力、 ピンクノイズ、2Ω	180W	260W	350W	370W
寸法(W×H×D)		483×89×228mm		483×89×285mm	
質量		4.0kg		5.0kg	
付属品		電源コード、和文取扱説明書			

*入力感度1.4V設定時。



この取扱説明書に記載されている商品名、会社名等は、その会社の登録商標または商標です。

HIBINO

<http://www.hibino.co.jp/>
E-mail: proaudiosales@hibino.co.jp

ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部

〒108-0075 東京都港区港南3-5-12
TEL: 03-5783-3110 FAX: 03-5783-3111

札幌オフィス

〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三條1-1-20
TEL: 011-640-6770 FAX: 011-640-6776

大阪ブランチ

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8
TEL: 06-6339-3890 FAX: 06-6339-3891

名古屋オフィス

〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26
TEL: 052-589-2712 FAX: 052-589-2719

福岡ブランチ

〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6
TEL: 092-611-5500 FAX: 092-611-5509